

平成 30 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 福 陽 会

特別養護老人ホーム 第3サンシャインビル
短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）

事業報告目次

項 目	ページ
事業報告	
1. 事業報告(総括)	1-2
2. 職員構成	2
3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書	3-4
4. 処遇報告	4-6
1) 2F 事業報告・活動報告	
2) 3F 事業報告・活動報告	
3) 4F 事業報告・活動報告	
4) 移動理美容	
5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告	
5. 厨房事業報告	7-8
6. 医務室利用者健康管理報告	9-10
7. リハビリテーション報告	11
8. 生活相談員・介護支援専門員	12-13
9. クラブ活動実績報告	14-16
10. 年間行事実施報告	17
11. 事務費・固定資産物品報告	17
12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告	18
13. 職員研修報告	19-20
14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告	20
15. 消防訓練実施結果	20-21
16. ショートステイ事業報告	21

1. 事業報告（総括）

中長期経営計画について

社会福祉法人福陽会の理念を毎朝読み上げる事で職員全員が周知し、基本理念を基に「こころある介護」を実践する事で利用者様・ご家族様地域の皆様に信頼される施設として実績を重ねる努力を続けました。

中期基本方針

現在実施している事を会議やカンファレンス等で常に検証し、より優れたサービス体制の構築へ向けてチームケアを進めています。

(1) サービス向上の取り組み実績としては、各部署が連携する事を強化していきました。カンファレンスやケース会議など、各部署が連携して意見を出し合う事で、一人一人に合った質の高いサービス提供に繋がっています。

(2) 組織強化への取り組みでは、新たなユニットリーダーの育成を行いながら、適材適所の人員配置、業務検討、見直しを行いました。

(3) 人材育成・確保への取り組みとして、外部研修、内部研修へ参加、適宜職員との面談を行う事で人材育成に努めました。新人職員に対しては、エルダー・メンター面談を実施し、新人職員が安心して業務が行える体制を取りました。

(4) 経営基盤充実への取り組みについては、3施設合同会議や日の出町、あきる野市、福生市の事業所連絡会に参加し、様々な情報を把握できるようにすると共に、訪問や連絡を行いながら情報収集に努めました。また、業務検討員会にて稼働率を報告する事で、各部署の所属長が経営に対する意識を持ち、業務を行う事ができました。

基本目標

福陽会の基本理念については、毎日の唱和を継続すると共に、理事長、統括施設長、施設顧問医師、副理事長に来園頂き、職員に対し法人設立当時の思いや理念について語って頂く事で福陽会の職員としての意識の向上を図りました。また、新入社員については統括施設長の書かれた文章から福陽会理念についての説明を行う事で基本理念の浸透に努めた結果、新人であっても理念に共感でき、それを基としてケアを行っていく事ができる者が増えています。

基本方針について

加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排泄、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理、その他の医療を要する方等について、これらの利用者様が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活が営む事が出来るよう、施設顧問医師指導の下、各部署連携し必要な介護サービスを提供し、地域福祉の増進を図る事を目的として事業を行いました。

(1) 利用者様の健康状態、身体状況を充分考慮に入れ、各部署の職員による情報の共有と連絡、相談を密に行い、職員1人1人が利用者様を良く観察し、介助が必要な利用者様が最低限度の援助で快適な生活が送れる為の環境作りに努めました。

(2) 地域社会との交流を深めるため、ボランティアの方々と交流を持ち、また、行事等に地域の方々にお越し頂きました。また、社会福祉協議会とも情報交換を行い、地域のニーズ及び利用者家族の動向、希望等を聞き施設運営に反映させました。

(3) 利用者様が施設行事に気軽に参加できるよう、地元ボランティアに協力をお願いし、日常生活に変化と季節感が持てるような施設での雰囲気作り、催し物を工夫しました。

30年度の重点目標について

平成30年度は高齢者福祉を取り巻く様々な厳しい状況の中、「利用者のニーズに合ったより良いサービス提供」、「良質な人材の確保・安定」、「高い稼働率の維持」等今後を見据えた施設運営に努めました。

理事長、統括施設長、施設顧問医師、副理事長の思いである法人理念を職員全員が継承し、一丸となって良質なサービスを提供していけるように努めました。重度化する利用者様の安定的な生活を維持しQOLを高めるため、施設顧問医師の指導の下、他職種協働で支援を行いました。

稼働率は特養 99.18%、ショートステイ 69.59%、平均介護度は 4.2 となりました。
 今年度は、特養入所待機者の確保、稼働率維持の為、施設顧問医師、副理事長のご指導の下、入所申込者への対応、連絡等の取り組みを行う事で、特養の稼働率は 99% の目標を達成、ショートステイに関しても今までより高い稼働率を確保できました。また、業務検討委員会で毎月の稼働率の報告を行う事で、各部署の所属長、リーダーが稼働率の把握を行えるようにしました。各部署の所属長、リーダーが中心となり、情報を共有化し「報告」「連絡」「相談」できる組織作りを行いました。施設顧問医師を中心に、他職種連携を図りながら利用者様、ご家族様のご意向を受け、利用者様の健康管理、看取り介護をさせて頂きました。看取り介護では、ご家族様から「心ある看取りを見させて頂いていただき、感謝しております」等の嬉しいお言葉も頂きました。
 季節感のある行事は、3 大行事をはじめ、外出レクにて、季節の花を観に行ったり、その他、クラブ活動でもその季節に合った歌を歌ったり、行事食を通して旬の食材を提供する事で季節感を味わって頂きました。地域との交流では、今年度は「都立特別支援学校における社会貢献活動モデル事業」により、あきる野学園との交流を図りました。また、昨年同様に日の出幼稚園の慰問等も行い、大変好評を頂きました。
 今後も「人がその人らしく生活できる環境づくり」を実践し、利用者様も職員も笑顔あふれる施設を目指していきます。

2. 職 員 構 成 3 月 31 日現在

担当職	職 名	職員	非常勤	
施設長		1		
顧問医師			1	
産業医			1	
事務長		1		
事務員		1	2	
生活相談員		1(1)	2(2)	
介護支援専門員		1(1)	2(2)	
介護職員		26	27	
医務	医師		3	* 兼務職員は主たる職務に記載し、兼務している職務では () 内に記載
	看護リーダー	1		
	看護職員	2	3	
機能訓練指導員	機能訓練指導員	1		
	P T		1	
厨房	管理栄養士	1		
	調理員	4	6	
保守管理・宿直	介助員	1	5	福利厚生費実績：3,156,918 円

3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書

委員会

第1～第4火曜日に委員会を振り分け会議を実施した。職員一人一人が担当の委員会に出席し、責任を持った意見も多く挙がってきている。今年度の会議の実施方法の見直しを行い、次年度は第2木曜日に全ての会議をして、業務改善、ケアの向上に努めていく。

1) 苦情・拘束委員会

毎月、意見箱の意見や、ご利用者様やご家族様等から直接聞いた苦情に関して話し合い、今後の対応について検討した。委員会で話し合った内容については、職員に周知徹底してきた。身体拘束に関しては、拘束することなく利用者様が安全に生活することができるよう話し合い、拘束は行わなかった。

2) 行事計画委員会

施設全体でイベントに向け多職種連携を図り取り組む姿勢がとれ、行事に力を注ぐことが出来た。次年度も多職種連携を図り施設全体で行事に取り組んでいくようにする。

3) 虐待防止委員会

利用者様が安心して生活を送って頂くよう、毎月の委員会時に虐待報告を行い、情報共有し虐待の早期発見・防止に努めた。また4か月に1回の虐待の芽アンケートを実施し、職員への虐待に対しての意識付けや、虐待に対しての原因や対策について考え、虐待防止に努めた。

4) 事故防止委員会

ご利用者様が安全な生活を送れるよう、各部署と連携を図り、事故防止に努めた。
毎月、各フロア内で発生したアクシデントや事故の集計を行い、各部署と原因や対策を考え、再発事故防止に努めた。

5) 研修委員会

内部研修は年間予定表の通りに実行出来た。一部都合にて資料配布での内部研修もあったが、各部署が協力し実りある研修だった。外部研修にもリーダー職を中心に積極的に参加した。次年度も引き続き外部研修に参加していきたいと思う。

6) 褥瘡予防委員会

月1回褥瘡委員会を開催し、各部署から選任された委員会メンバーにて褥瘡の発生や軽減、高リスクについて対応の統一と状態の検討を行った。
体調不良や栄養状態の変化、日々の生活上の問題点に伴い褥瘡が悪化するケースが見られた。必要時早期に足浴を行う、清潔を保持できるよう洗浄を増やす、機能訓練指導員と共に体位交換の見直し等を積極的に行う事で悪化を防ぎ改善する事ができた。今後も早期発見、早期対応を行い、褥瘡予防に努めていく。

7) 感染症委員会

毎月の委員会に加え、臨時の委員会も開催し感染の予防、対策について検討を行い実践した。感染症の発症はあったが、感染症の拡大には至らなかった。施設顧問医師指導の下、対策、原因を検討し、施設内感染症状況を書面にして、各部署と職員通用口に掲示する事で感染症の状況、対応策を全職員が周知し、統一した対応を行う事で蔓延予防に努めた。

8) 衛生委員会

職員の定期健康診断を実施した。また、産業医の指導のもと労働者の健康管理の維持に努めた。
衛生管理者等による施設内巡回を実施し、職員が仕事しやすい環境整備に努めた。
ストレスチェック制度の施行に伴い、職員のストレスチェックを実施し、従業員のメンタルヘルス不調を未然に防止した。

9) 業務検討委員会

各部署から議題を持ち寄り、全部署にて議題を検討し、業務改善を行った。業務改善を行う事で、全職員が統一した対応が出来るように努めた。また、稼働率の話も行い、安定した経営を行っていく事を目指した。

10) 栄養会議

お食事に関するイベント毎の確認や諸連絡の伝達を実施した。
毎月の体重測定や、採血等の結果、食事摂取状況について情報の共有を行い、低栄養のリスクがある利用者様のケアについての話し合いを実施し、対応の検討を行った。
選択おやつの日を設定するだけでなく、献立についても新たな取り組みを行い、食事満足度の向上に努めた。

11) リーダー会議

毎月議題を決め、各ユニットの問題点や取り組みについて話し合った。他ユニットの状況も把握し、助け合いながら業務が遂行出来るよう努めた。常に対話を密にし、リーダー間の信頼関係を少しずつ作る事が出来たと思う。

12) ボランティア委員会

ボランティアの新規受け入れや、ボランティアと施設間の連絡調整を行い、利用者様に楽しんで頂ける時間を多く設ける事が出来た。30年度は4名の方に新規のボランティア登録をして頂いた。

昨年同様、日の出幼稚園との交流は利用者様に大好評を頂いた。今年度は、あきる野学園との交流も行い、この交流は次年度にも活かしていきたい。「施設の食事を知ろう会」は地域の方々に参加して頂き、施設を知って頂く良い機会となった。ボランティア交流会は日頃お世話になっているボランティアさんと施設職員にて交流を図ろうと企画していたが、感染症が流行っていた為、中止となった。次年度は実施していきたい。

会議費実績：6,700円

4. 処 遇 報 告

介護部 事業報告

福陽会の基本理念を毎朝唱和する事で職員一人ひとりが基本理念を理解し、業務を行なうよう努めた。

ユニット単位の内部研修を行ない、栄養士や機能訓練指導員から指導を受ける事で、職員一人一人の知識、技術、意識を高めた。

利用者様の問題に対して、他部署が連携してカンファレンスを行い、決定事項を職員全員が統一して行なえるように努めた。

利用者様の希望を聞き、手話や料理レクなどを行い、利用者様に楽しく過ごして頂けるように努めた。今後も、利用者様がこの施設に来て良かったと思って頂けるよう、サービスの質の向上を目指していく。

1) 2F 事業報告・活動報告

(1) あやめユニット

ご利用様が健全に生活して頂ける様身体介助だけでなく、気持ちにより添いご本人様を尊重した支援に努めました。

- ・ご利用様の要望を第一に考え、お話しや普段のコミュニケーションのなかからご本人様のお気持ちを考え職員統一した支援を行えました。

- ・日常生活の中で体操や歌を歌ったり、楽しんで生活を送れるよう工夫しました。今後も様々なレクリエーションを行い、ご利用様が笑顔で楽しんで生活を行えるよう工夫していきます。

- ・季節に合わせた外出の計画、実施に努めてきましたが不十分な所もあり、参加出来ない方が出ない事を課題とし取り組みます。

(2) さゆりユニット

- ・利用者様の情報を連絡ノートに記入し、情報共有する事で、個々に合わせた支援を行った。

- ・利用者様の要望や不安をしっかりと聞き、他職種と連携を図りながら、ストレスなく利用して頂けるよう努めた。

- ・他職種との連携をスムーズにする為に、連絡表にチェック項目の追加作成を行った。

- ・ユニットでのレクリエーションがあまり実施出来なかった為、今後は外出も含め定期的なユニットレクリエーションの実施していきたい。

(3) さくらユニット

- ・利用者様1人1人とコミュニケーションをしっかりと取り、快適に生活出来るよう環境整備に努めた。

- ・ユニットでのレクリエーションをあまり行うことが出来なかった為、次年度は積極的に取り組んでいきたい。

- ・内部研修への参加や、職員間でケアの方法の話し合いを行い、ケアの質の向上に努めた。

(4) みもぎユニット

利用者様1人1人に寄り添う機会を増やし、利用者様、職員共に笑顔にて過ごす生活を心掛けることが出来た。

利用者様の立場で物事を考え、その方に合わせた生活の場の提供と、尊厳、個性を重んじるケアに努めた。

余暇活動を取り入れる機会が充実していなかった。次年度、時間を作り余暇活動に積極的に取り組んでいくようにする。

2) 3F 事業報告・活動報告

(1) すみれユニット

毎朝ホールにてリハビリ体操を行う事ができ、利用者様も笑顔で参加されていた。

利用者様の日中や夜間帯の様子を、職員同士で声掛けや申し送りノートを活用し、情報共有することができた。また、利用者様の体調不良等で出来なくなってしまったことが、他職種と連携し、また出来るようになるまで回復することができた。

利用者様と日々コミュニケーションを図り、今したいことなど希望を聞き取り、誕生日に実現することができた。次年度も誕生日計画実施を継続する。

(2) つばきユニット

・日々利用者様と積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築こうと努められたと思う。

今後も積極的に声掛けを行い、安心して生活して頂けるよう努めていく。

・毎日のリハビリ体操、空いた時間でカラオケ等を行えた。これらを楽しみにされている利用者様も多く、今後も続けていきたい。また、ユニットレクのバリエーションを増やし、利用者様が退屈せず、活気ある生活が送れるよう努めていきたい。

・毎月フロアーミーティングを行うことで、職員間のコミュニケーション、情報の共有が図れたと思う。今後も継続し、各利用者様に対するケアの向上につながるよう、質の高いミーティングを行っていきたい。

(3) つつじユニット

・利用者様一人一人と信頼関係を築けるようコミュニケーションを図った。どの利用者様とも積極的にコミュニケーションを取っていききたいと思う。

・毎日のリハビリ体操やピアノ演奏と歌の時間などをつくり、楽しんで頂けるよう努めた。

・毎月ユニットミーティングをすることにより、日頃の問題点、疑問点などを話し合った。来年度も継続して情報交換を密に行っていく。

(4) あじさいユニット

利用者様お一人お一人に寄り添い、ご家族様も含めコミュニケーションを測り、安心して過ごして頂けた。レクリエーションは残存機能の低下により、積極的な活動は行なえなかった。

職員間の連絡・報告・相談を多く図るように努めたが、まだまだ至らない点があった。反省、振り返りを生かし次年度に繋げて活きたい。

3) 4F 事業報告・活動報告

(1) ひまわりユニット

利用者様が笑顔で楽しく過ごせるよう職員同士で話し合い、質の高いケアを目指した。

手話歌のレパトリーを増やし、行事で発表の場を設け披露することができ、ご家族様にも大変喜んで頂くことが出来た。

折紙を活用し、貼り絵や塗り絵を行い、ユニットを明るい雰囲気にする事ができた。

職員同士が連絡を密にし、利用者様ひとりひとりの個性と笑顔を引き出すことができた。

(2) コスモスユニット

利用者様が毎日楽しい生活を送れるよう、明るいユニットづくりを目指した。

季節に合わせた貼り絵やレクリエーションを行い、一年を通してユニット内を明るい雰囲気に保つことが出来た。

日頃から体操や手話歌を行い、身体を動かす事の楽しさや、練習を重ねる事で上達することの嬉しさを感じる事が出来た。

職員の笑顔を決やさず、ご家族に対しても挨拶をしっかり行い、利用者様、ご家族共に信頼関係を構築することが出来た。

4) 移動理美容

理容が第2・4月曜日の月2回、美容が第1金曜日の月1回来て頂いている。利用者様のご希望によって利用して頂いている。ご家族様、そのご家族様がどの位の頻度で利用されたいか、どの位の長さでカットされたいか等の希望を理容師、美容師に伝え、ご希望に沿うように行えた。

5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告

勘定科目	内容	金額	勘定科目	内容	金額
介護用品費	オムツ	10,259,913	日用品費	トイレットペーパー、ティッシュペーパー	251,406
	タオル	1,392		ブラシ	378,701
				煎茶	189,000
				その他	590,851
	小計	10,261,305		小計	1,409,958
被服費	寝具設備	4,017,168			
	その他	38,808			
	小計	4,055,976			
			合計	15,727,239	

○給食費実績：26,392,340円 ○介護用品費実績：10,261,305円 ○医薬品費実績：2,781,906円
 ○日用品費実績：1,409,958円 ○被服費実績：4,055,976円 ○消耗器具備品費実績：473,480円
 ○保健衛生費実績：962,712円 ○車輛費実績：569,849円 ○水道光熱費実績：20,206,565円

5. 厨房事業報告

《衛生管理・食事提供》

- ・手指の洗浄・消毒や衣服の清潔保持、厨房内の衛生管理を確実に実施した。体調不良時や感染症発生時に備えた連絡経路等のマニュアルや調理過程のチェック体制等の周知も徹底し、安全なお食事を利用者様に提供できる体制づくりに努めた。
- ・衛生マニュアルに従った業務、非加熱食材の取扱方法、加熱温度と時間の徹底を行い、安全なお食事を利用者様に提供することが出来た。
- ・全員で掃除をする時間としてクリーンタイムを導入し、厨房衛生に対する意識の向上を図った。
- ・フロアラウンドの強化や嗜好調査を行い、利用者様のニーズに応える献立の作成と調理法の工夫を行った。
- ・利用者様の希望に沿うよう選択おやつの日と希望おやつの日を設定し喫食満足度の向上に努めた。

《行事食・麺の日・出前の日・喫茶の日・誕生日会・選択おやつ・希望おやつ実施内容》

- ・行事食：月 1 回(正月は三が日)実施。カード装飾や、旬な食材を使用した季節感の取り入れ、食欲が増すようなきれいな盛り付けを行う等工夫を凝らした。月に 1 度の行事食は利用者様に特に喜んで頂くことが出来た。今後もバリエーションを増やし、更に利用者様のニーズに応えるようにしていく。
- ・麺の日：うどんやそば、ラーメン、冷やし中華、そうめん、サラダ麺、スパゲティ、焼きそば等を実施した。
- ・出前の日：鰻…形態に合わせて食べやすい大きさに刻んで提供した。寿司…原則として米飯の方は握り寿司、粥の方には刺身、粥、極菜・ペーストの方は刺身を細かく刻んでたたきにして提供した。生ものが苦手な方には、助六での提供も行った。
- ・喫茶の日：毎月第 4 日曜日に実施。サクソボランティアの演奏と共にデザートとコーヒーを提供した。
- ・誕生日会：毎月第 3 水曜日に実施。誕生月の利用者様に事前に招待状をお渡しし、当日は手作りケーキとコーヒー、歌や演奏等を楽しんでいただくことが出来た。
- ・選択おやつ：月に 2 回実施。いくつかおやつを準備し、利用者様 1 人 1 人に食べたいものを選んで頂き、提供を行った。
- ・希望おやつ：利用者様から食べたいおやつを伺い提供を行った。ユニットで利用者様に手伝っていただきながら作成した事もあり、大変喜ばれていた。

希望おやつ実施内容

4 月	・駄菓子 ・餃子	10 月	・ティラミス ・甘酒
5 月	・おしるこ ・水ようかん	11 月	・おしるこ ・クレープ
6 月	・くずまんじゅう ・チョコレートケーキ	12 月	・おしるこ ・おしるこ
7 月	・アイス ・アイス	1 月	・果物ゼリー
8 月	・たこ焼き ・あんみつ	2 月	・あんみつ ・あんこまき
9 月	・タルト ・たこ焼き	3 月	・たこ焼き ・梅ゼリー

《代替食実施状況》

青魚・魚・鯖・鶏・肉・納豆・牛乳・刺激物・ カレー・シチュー・麺・パン・ピザ・ナッツ・生物・エビ	他の料理で対応
丼別盛り、あんかけ別盛り、主食おにぎり	盛り付け時に対応

《給食懇談会・厨房会議・嗜好調査アンケート結果》

- ・毎月各ユニットにて給食懇談会を実施し、食事についての意見・要望や、食べやすさ(形状・硬さ等)、食べたい献立についてのご意見をいただいた。
- ・厨房会議を毎月必ず行い、その月に発生した取り組み課題をまとめ、部署全体での問題解決に努めた。業務の検討や反省・意見交換を行い、意識の統一を図った。また、給食懇談会の内容も報告し、業務改善の参考とした。
- ・調理ノートの作成を行い、調理法の統一を図り、誰が調理しても同じ出来栄になるよう努めた。
- ・嗜好調査アンケート結果からリクエスト献立として積極的に人気メニューの提供を行い、喫食率向上に努めた。

《療養食・栄養ケアマネジメント実施状況》

- ・医師の指示のもと、療養食が必要な利用者様に提供を行った。献立や調理を工夫し、なるべく常食と差異を感じずに、おいしくお食事が提供できるよう努めた。
- ・多職種と連携して利用者様ひとりひとりの状態を把握し、適切にスクリーニング、アセスメント、モニタリングを実施することが出来た。

6. 医務室利用者健康管理報告

【年間目標】

(1) 利用者様と日々関わりを持つ中で、状態観察を行い異常の早期発見に努め過ごしやすい環境の提供を行う。

- ①必要に応じて観察(体温・脈拍・呼吸・血圧・Spo2 等の測定)を行い異常の早期発見に努める。
- ②関わりを持ち観察する事で、身体的・精神的変化に注意していく。
- ③他職種と連携を図り、利用者様が安定し過ごしやすい生活が維持できるよう変化に注意し速やかな対応を心掛ける。
- ④高齢者の身体的・精神的変化を理解し、起こりやすい障害や疾病の悪化を未然に防げるよう観察・早期治療に努める。

(2) 身体的安定を図る為、感染症予防に努める。

(3) 終末期を迎えられた方が、最後までその人らしく安らかに過ごせるようなケアの提供に努める。

(4) 褥瘡形成による身体的、精神的負担を与えず安らかで過ごしやすい生活環境が提供できるよう予防に努める。

(5) 看護間での情報共有に努めると共に、業務終了後に処置、物品確認を行なうことで円滑な業務の遂行、見落としを防止する。

- ①日常業務の中で看護間での情報共有を行い、意見交換やケアの方向性を検討する事で統一した看護の提供に努める。
- ②業務終了後に物品確認を行う事で、次の業務を円滑に遂行できるようにする。
- ③業務終了後にケアや処置内容の振り返りを行い、業務の見落としの予防に努める。

年間目標(1)に対し、他職種の連携により、御利用者様の生活のあらゆる場面の状態を観察、情報の共有をし、担当看護職員が日常生活の観察、精神的変化の言動、行動、身体的変化のバイタルサインの異常を早期発見することにより、医療機関への受診、疾病の増悪の予防に努められたのではないかと考える。しかし、全ての御利用者様が異常の早期発見が出来たのではなく、1件急変があった。急変前の小さな変化に気づけるよう今後も努力をしていく

年間目標(2)に対し、インフルエンザ予防接種施行、感染委員会の取組みの中、面会者へのうがい手洗いマスク着用の徹底やスタンダードプリコーションの施設内研修、環境整備を行い、前年度と変わらず流行感染症発症はなく、また症状があったとしても、施設内での感染拡大には至っていない。今後も職員の知識、技術の向上を目指し指導的立場で取組みを行っていく。

年間目標(3)に対し、施設内での看取りケアのあり方の理解が不十分であった為、病院に準ずる医療的ケアを行っていた。ターミナルケアで亡くなった方12名のほとんどの方が最期まで点滴を施行しており、家族の希望に沿ったケアではあったが、施設での看取りケアという視点からすると方向性が異なっていたと考えられる。今後、外部研修への参加を積極的に取り入れ、医務職員、提携病院医師との共通認識のもと、医療的ケアを行なえるよう努力していく。

年間目標(4)に対し、褥瘡委員会ではADL、栄養、体重、皮膚の状態などからアセスメントをして発生リスクが高い御利用者様のポジショニング、除圧、体位変換を行っているが、8名の褥瘡発生があった。褥瘡発生後のケア、処置にて完治に至っている事を考えると、高リスク者への援助が問題であったと考えられる。高リスク者への援助の見直しを図っていく必要があり次年度へ繋げていく。

年間目標(5)に対し、目標に向けて実践を行ってきたが、看護間での情報共有の面での認識の違いがあり上手く伝わっていない状況が何度か見られていた。対策としてノートを活用、反復させ理解の確認等行ってきた。今後も業務の伝達事項を正確に伝えられる様、努めていく。

通院・入院履歴

	通院	入院	退院
4月	4名	0名	0名
5月	14名	0名	0名
6月	11名	1名	0名
7月	5名	0名	0名
8月	8名	0名	0名
9月	5名	0名	0名
10月	8名	1名	0名
11月	5名	1名	0名
12月	7名	3名	0名
1月	6名	3名	2名
2月	6名	2名	1名
3月	8名	2名	2名
	年間通院者数 87名	年間入院者数 13名	年間退院者数 5名

3月31日現在の医療ケア介入必要者

胃瘻からの経管栄養実施者	5名
点滴施行者	0名
血糖測定者	0名
在宅酸素使用者数	0名
常時、口腔・鼻腔内からの 喀痰吸引が必要となる利用者	
褥瘡処置施行者	0名
褥瘡以外の皮膚処理施行者	2名
ターミナルケア対応者	31名
合計	38名

平成30年度死亡退所者

入院先での死亡者	5名
施設内での死亡者	2名
施設内ターミナルケア対応 死亡者	8名
合計	15名

7. リハビリテーション報告

(1) 総括

平成 30 年度リハビリテーションにおいては、利用者様の自然な笑顔を心掛けてリハビリを行いました。また利用者様の既往歴・現病歴の把握、事前のバイタルチェック、他職種との情報共有などにより安全性を確保しました。医師、理学療法士の指導の下、利用者の心身の状態、施設での生活におけるニーズなどを考慮し、個別的で実効性のある訓練計画の策定を目指しました。

(2) 実施事項

- ①理学療法士による評価・プログラム作成・生活リハビリの作成等
- ②関節可動域訓練
- ③基本動作訓練
- ④筋力訓練
- ⑤体位交換や除圧方法の検討
- ⑥車椅子の整備

(3) 結果

利用者様との触れあう時間を増やしたことで、よい関係を築けた。今までリハビリに対し消極的だった方に対しても介入が出来るようになってきた。また、いい関係性を築けたことにより利用者様の自然な笑顔を見ることができた。リハビリに対しても意欲的に参加されることで効率も上がり、利用者様の目標達成に向け前進できた。

・トイレが使えるようになった例

入所中の利用者様で以前はトイレを使用していた方がいました。上腕骨骨折、腰痛により臥床時間が多くなり、オムツを使用されていました。以前はリハビリの拒否等もあり介入は出来ていなかったようですが、よく会話を行い関係性を築けたことでリハビリにも協力的になっていただけました。ご本人と話し、またトイレが使えるようになりたいと目標を定めることができ、達成に向けリハビリを行いました。最初は不安定感があったものの、次第に安定し、相談員、介護職員にも確認していただき現在はトイレの使用ができるようになりました。ご本人、ご家族様も目標達成に大変喜ばれていました。

・歩行機能が向上してきた例

以前はシルバーカーにて歩行できていたが、車椅子上の生活が長く、歩行機能の低下が見られていました。ご本人の希望もあり、初めは立ち上がり訓練から行いました。次第に下肢筋力の増加も見られ、シルバーカーの歩行を始めました。最初は恐怖感もありませんでしたが、回数を重ねるごとに歩ける距離も伸びていきました。今ではフロアを1周歩けるようになり、歩きながら笑顔も見られるようになりました。

(4) 課題

リハビリテーションにおける著明な効果はご本人の「やる気」に担う部分が大きいものである。「やる気」という強い意志を持てる利用者様は決して多く存在はしない。しかし、介入等コミュニケーションの構築により、利用者様が積極的に身体を動かしたくなる環境は作れると思われる。この環境作りをしっかりと継続して行いたい。

また、リハビリテーションとは特別な訓練のみを指すものではなく、生活活動すべてに付随できるものである。さらに、リハビリテーションは身体機能の改善のみを目指すだけではなく、個性を尊重したより良い生活 (QOL 向上) を目指すものでもある。このような広い枠組みでリハビリテーションを捉え展開していくこと、つまり、「生活の中でのリハビリ＝生活リハ」の充実が今後の課題である。さらには、介護職員と体位交換やポジショニング、シーティング等の共有を行い、利用者様に安楽な姿勢が保持出来るようにする。安楽な姿勢により体圧の除圧を行い、褥瘡の発生予防に努める。

8. 生活相談員・介護支援専門員 事業報告

1、利用者様支援、多職種連携の調整役

福陽会の基本理念である「人がその人らしく生活できる環境づくり」を常に考えながら、各階に相談員を配置して、日頃から利用者様へのご様子や状態確認の声掛けや観察を行い、介護現場職員をはじめ、医務・リハビリ・栄養等各部署、また、ご家族からも利用者様の情報を集めて各部署へ発信し、お一人おひとり利用者様の環境を整えていくよう努めた。生活相談員がユニット内を回り、利用者様へ声掛けを行い、また職員との情報共有をすることで利用者様のご様子を確認して、ご本人のニーズを把握。その情報を多職種でアプローチできるように調整を行い、解決できるよう支援を行った。また、利用者懇談会を適宜実施して、利用者様の生活への良い点や悩みや要望等の意見を聞く機会を設けた。徐々に各部署の情報の共有の流れや形が整ってきたため、次年度も生活相談員が調整役となり、情報の伝達・共有を迅速かつ正確に行い、利用者様へのチームケアができるように心がけていく。また、医療面でのご利用者様の状態に関するご家族様への連絡は医務より行っており、職種間でより多くの連携の必要性を感じた。今後も『報告・連絡・相談』を多職種間で徹底をして、より良い多職種連携のシステムを作っていく。

2、ご家族、施設間調整

施設と利用者様ご家族との橋渡し役として利用者様のご様子を都度お伝えし、ご家族との関係調整役として動いたことで、それぞれのご家族より安心して利用者様を任せていただいた。また、信頼関係も築けており、施設行事に参加して下さるご家族や、ご本人の状態変化時等には面会に来てくださり、病院等への付き添いにも行って下さるご家族が大多数おり、ご家族と協力してご本人の生活を支援できた。今後もご家族への連絡等をしっかり行い、安心していただけるよう努めていく。医療面でのご家族への連絡は医務より行う体制をとっているため、今後も細かく連携を行っていく。

3、利用者様の入所前、入所時の支援について

入所を希望する方が相談にいらした時に、その方にとって当施設が提供するサービスを本当に必要としている方なのかどうか、まずその人のニーズは何かを見極めて情報提供を行った。また、利用者様入所時にはご本人、ご家族より聞き取りを行い、これまでの生活歴、趣味、嗜好等々ご本人の情報を収集し各部署へ共有してケアができるようにした。利用者様が施設へ入所する前の事前面接を近隣の場合は徐々に行うことができ、今後も可能な限り、相談員と多職種にて事前面接を実施していき、入所前の情報共有を進めていく。

4、介護職員へのスーパーバイズについて

各ユニットリーダーの現場指導とは別に各フロアの相談員が職員のスーパーバイザーとなり、フロアをラウンドする際等に利用者様に対するケアや対人への態度等の確認を行い、指導、評価を行った。職員の職場環境の変化や日頃の様子等にも目を向けて、ストレスやメンタルの面での職員の相談役としても担えた。

5、営業について

営業活動を通して、近隣の事業所との関係性も強まっているように感じる。また『西多摩特養ガイド』の設立もあり、都区内からの問い合わせや見学、申し込みも増えてきて、対応させていただいている。資料請求の方に対しては、分かりやすいように料金表に一言付け加え、施設見学などは随時承り、施設をアピールすることに努めた。その結果、「色々なところを問い合わせたけれど、ここまでやってくれた施設はなかった。」等の声をご家族よりいただき、好評な様子だった。今後もひと手間を惜しまずに、ご家族に寄り添った相談を行って、施設をアピールしていきたい。

6、入所時面接について

入所時に面接を行い、生活環境を聞き取り把握することで、リロケーションダメージを最小限に抑え、施設での生活に移行できるように、支援を続けた。24時間シート作成も継続して行い、注意点などを指摘し、他職種に発信して情報を共有出来るように努め、新規ご利用者様の支援をしてい

った。入所時に把握しきれない事もあるため、入所後も継続して情報収集を行い、その人にあった支援を出来るように努めた。

7、ケアプラン作成について

聞き取りを行った情報を元に、施設サービス計画書を暫定に作成し、ご家族・ご本人に説明・同意をしていただいた。そして1か月後に初回カンファレンスを開催し、その人らしい生活を送ることが出来るよう、新規プランを作成した。またADLの変化が著明に表れた時には、緊急カンファレンスを開催し、状態に応じたプランを作成すると共に支援できるように努めた。また、目標に関してはより具体的な言葉で、その利用者様のことを考えながら作成するよう努めた。

新規プランに関しては、ADLに変化がなかった場合には3か月、更新に関しては6か月と設定。ADLに変化があった場合には期間は3か月とするも、その都度様子を観察し作成した。

ターミナルケアに入った方に関しては、状況把握に努め3か月に1度の見直しを行い、計画書を作成することになった。

8、モニタリングについて

1か月ごとに支援経過としてモニタリングを行い、ご利用者様の状態を把握していた。介護職員は『ケアカルテ』の中にある支援経過に記入をしている。また介護支援専門員は『ケアカルテ』のモニタリング用紙に3か月後・6か月後の2回行い、項目に合わせて観察事項を記入して、継続するか変更するかの資料とした。またターミナルケアの方については、3か月ごとのモニタリングを行い、より細かに観察を行っていった。

9、ケース会議について

毎月第2水曜日・第3火曜日・第4火曜日の午後に開催予定とし、ケース会議を行った。職種間調整が難しい場合には、介護支援専門員による聞き取りを行ったが、基本的には調整をして、ケース会議を開催。職種間の情報共有にて、利用者様の状況を把握。プラン作成に繋げた。またケース会議のコーディネート・進行して、各職種の専門性を尊重するようにまとめるよう努めた。今後も多職種で情報を共有して、ケアに繋げていきたい。

10、介護職員へのスーパービジョンの展開

施設サービス計画書についての内部研修や、モニタリング時に介護職員に対し、施設サービス計画書の必要性についてスーパービジョンを展開した。記録の書き方や観察の注意点などを都度介護職員に話をしていき、利用者のニーズに沿えるように注意を払っていった。

今後も引き続きスーパービジョンの展開を図り、意識を向上していくよう努めていきたい。

9. クラブ活動実績報告

① クラブ活動について

出来るだけ多くの方に参加していただけるよう声掛けに努め、楽しいひと時を過ごしていただけたと思う。

特養入所の利用者様だけではなく、ショートステイの利用者様にも声掛けし、楽しい時間を過ごしていただけるよう努めた。

趣味・嗜好を継続して行えるよう様々な状況を考慮し、利用者様の希望に出来るだけ添うよう努め、又、ご自身の得意とする力を発揮していただき、自信を持って積極的に参加していただけるよう支援した。参加してみたいと興味を持った活動には参加していただき、新たな楽しみを感じていただけたと思う。クラブ活動に参加することで、季節や環境の変化を感じ、他者との交流や講師の先生方との交流を図りながら楽しい時間を過ごしていただけた。

継続してクラブ活動に参加されている方は、活動日が楽しみと言われ、ほぼ満足していただけたように思う。

② クラブ活動名と講師名

クラブ名	講師名
華道	根守 和子先生
茶道	大野先生・森田先生
書道	石井 亮子先生
手芸	福田先生 他2名
音楽	澤田 康次先生
童謡	谷津 恵理子先生

華道クラブ活動報告						
活動回数	18回	参加延人数	407名	平均参加人数	22名	担当：井上
【活動報告】						
1. 第2・第4金曜日に活動						
2. 季節ごとに咲く花を楽しみながら季節感を感じていただけた。						
3. 活動を通して利用者間での助け合いや、他の方の生けた作品を見ながら交流をもつことが出来た。又、先生にご指導いただきながら先生とのコミュニケーションを図る事が出来た。施設の文化祭や地域の文化祭に出展していただく事で喜びと励みを感じていただけたと思う。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	季節の花を生ける		10月	季節の花・施設の文化祭用の作品		
5月	季節の生け花・フラワーアレンジメント		11月	地域の文化祭に出品・季節の花を生ける		
6月	季節の花を生ける		12月	フラワーアレンジメント・お正月の生け花		
7月	〃		1月	施設内感染症対応の為活動中止		
8月	活動なし		2月	〃		
9月	季節の花を生ける		3月	季節の花を生ける		
職員担当フロア：3F西						

茶道クラブ活動報告						
活動回数	19回	参加延人数	226名	平均参加人数	12名	担当：柴田
【活動報告】						
1. 第2・第4水曜日に活動						
2. 先生のご指導のもと、参加者がお手前をし、お抹茶の味と、香りを楽しんでいただけた。						
3. お手前で次の段階に進める方は工程を増やして行った。						
4. お茶と季節感のある和菓子をいただきながら、和やかで穏やかな時間を過ごしていただく事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	先生のご指導のもとお手前をする		10月	先生のご指導のもとお手前をする		
5月	〃		11月	〃		
6月	〃		12月	〃		
7月	〃		1月	感染症対応の為、1回の活動でした。		
8月	〃		2月	〃		
9月	〃		3月	〃		
職員担当フロア：3F東						

書道クラブ活動報告						
活動回数	19回	参加延人数	169名	平均参加人数	9名	担当：清水
【活動報告】						
1. 第1・第3土曜日に活動						
2. 清書をした作品を参加者にみていただき、前回の清書した作品との講評を行いました。徐々に上達される喜びと、励ましの言葉を掛け合いながら交流を図ることが出来た。						
3. 施設と地域の文化祭に出品し外部の方に見ていただく事で、今後の喜びと励みになった。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	お手本をもとに前回の課題練習		10月	施設・地域の文化祭の作品仕上げ		
5月	お手本をもとに前回の課題練習・清書		11月	新しいお手本をもとに練習		
6月	色つきの上質用紙に清書		12月	新しいお手本をもとに練習・清書		
7月	新しいお手本をもとに練習（1回の活動）		1月	感染症対応の為、1回の活動		
8月	施設・地域の文化祭の作品練習		2月	感染症対応の為、活動中止		
9月	〃		3月	お手本をもとに前回の課題練習（1回の活動）		
職員担当フロア：2F東						

手芸クラブ活動報告						
活動回数	1回	参加延人数	20名	平均参加人数	20名	担当：井上
【活動報告】						
1. 施設・地域の文化祭出展の作品作り。						
2. 手芸材料を使用して、個性豊かな作品作りを楽しんでいただけた。						
3. 参加者と交流を取りながら、手作り作品の完成に満足感を感じる事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月～9月	活動なし		10月	クリスマスツリー作り		
			11月～3月	活動なし		
職員担当フロア：4階						

音楽クラブ活動報告						
活動回数	20回	参加延人数	592名	平均参加人数	29名	担当：清水・井上
【活動報告】						
1. 土曜日の午後 1～2回/月						
2. 発声練習で、大きな声を出す事により、腹筋や口腔体操にもなり、自然に声を出すことが出来た。						
3. 馴染みの有る曲や、初めて唄う曲・懐かしい曲等、様々な思い出の有る歌を皆さんと楽しく歌う事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	発声練習・今までの課題曲の復習		10月	発声練習・今までの課題曲の復習		
5月	〃		11月	〃		
6月	〃		12月	〃		
7月	〃		1月	感染症対応の為、活動中止		
8月	〃		2月	感染症対応の為、1回の活動		
9月	発声練習・新曲・今までの課題曲復習		3月	発声練習・今までの課題曲の復習		
職員担当フロア：2F西						

童謡クラブ活動報告						
活動回数	2回	参加延人数	34名	平均参加人数	17名	担当：萩原
【活動報告】						
1. 第1・第3金曜日に活動を行なっていましたが、先生のご都合で6月以降の活動は行なっていません。						
2. ピアノ講師によるピアノ演奏で、童謡を中心とした歌を唄った。						
3. 良く歌った童謡や季節を感じていただく童謡等、ピアノの演奏で楽しい時間を過ごしていただけた						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	春の歌を中心に唄う					
5月	子供の日の歌・季節の歌を唄う					
6月	以降活動なし					
職員担当フロア：2F東						

フラサークル

・活動日は不定期で行った。自由参加で1回の活動で15名～20名程の参加でした。

上肢のリハビリを兼ねて、ハワイアン曲に合わせハンドモーションの意味を説明しながら歌を唄いながら楽しく踊っていただけました。参加者にはレイを掛けてハワイに居る雰囲気を感じていただきました。

セラピー犬とのふれあい

・不定期で行なっていましたが、7月にセラピー犬が亡くなった為、7月以降の活動は行なっていません。

クラブ活動費実績：882,265円

10. 年間行事実施報告

第3サンシャインビル

平成30年度「年間行事計画実施表」

日時	曜日	行事名	内容
4月21日	土	観桜会	4階テラスにて日本舞踊、歌手による歌披露、太鼓を楽しむ。
5月16日	水	運動会	地域交流室にてユニットごとに紅白チームに分け、紅白対抗競技を行う。
7月21日	土	納涼祭	地域交流室、屋外スペースにて歌手による歌披露、よさこい盆踊りを楽しむ。
8月8日	水	夕涼み会	屋外スペースにて利用者、職員のふれいあいの場とし花火をして楽しむ。
9月15日	土	敬老会	地域交流室にて式典。大正琴演奏を楽しむ。各ユニットで祝膳。
9月30日	日	八幡神社例大祭	地域イベントに参加し地域交流が行うことが出来た。
10月13日	土	敬老会	日の出町の敬老会に参加。
10月27日	土	文化祭	クラブ作品展示、歌手による歌披露、落語、演奏、茶道を楽しむ。
11月10、11日		文化祭	日の出町の文化祭に参加。
12月		クリスマス会	各ユニットで計画しクリスマス会を行い楽しむ。
1月2日	水	元旦式典	地域交流室にて式典。各ユニットで祝膳。
1月1・2・3日		初詣	八幡神社、熊川神社に初詣に行く。
1月9日	水	餅つき	地域交流室にて餅つきを行い楽しむ。
2月2日	土	豆まき	各ユニットで鬼が周り豆まきを行い楽しむ。各ユニットで祝膳。
3月2日	土	ひな祭り	各ユニットで祝膳。

行事費実績：1,128,997円

11. 事務費・固定資産物品報告

事務費報告

○事務消耗品費：5,070,966円
 ○通信運搬費：736,550円
 ○手数料：5,322,460円
 ○土地・建物賃借料：60,000円
 ○渉外費：144,300円

○印刷製本費：255,694円
 ○広報費：1,504,140円
 ○保険料：7,642,324円
 ○租税公課：179,960円
 ○諸会費：224,600円

○修繕費：1,028,155円
 ○業務委託費：8,130,895円
 ○賃借料：3,697,985円
 ○保守料：2,832,988円
 ○雑費：1,021,254円

12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告

自治体への事故報告

	転倒	転落	その他	計
4月				
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月	1			1
11月				
12月	1			1
1月	1			1
2月				
3月				
合計	3	0		3

アクシデント報告

	転倒・転落	誤飲・誤食	誤薬・未薬	その他	計
4月	2			2	4
5月	3				3
6月	2			2	4
7月	3			1	4
8月	3		6		9
9月	6		1	2	9
10月	5			18	23
11月	4		1	21	26
12月				13	13
11月	2		1	6	9
2月	3			13	16
3月	3			8	11
合計	36		9	86	131

ヒヤリハット報告

4月	23
5月	27
6月	29
7月	62
8月	46
9月	21
10月	16
11月	16
12月	22
11月	14
2月	11
3月	27
合計	314

13. 職員研修報告

【外部研修】

研修日	研修内容	参加者
5月23日	介護報酬請求事務に関する研修会	上沖早紀
5月30日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会 第37回定期総会	木村公紀
5月31日	平成30年度特別養護老人ホーム経営支援補助金事務説明会	小澤俊太郎
7月24日	西多摩保健所福生地区特定給食研究会 第3回 日常業務に役立つ業務用食品展示会	木村公紀
7月30日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
8月9日～ 10月17日	東京都介護支援専門員研修Ⅱ	石川総恵
8月22日	高齢者虐待防止研修	伊沢利恵 佐野学
8月29日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
9月12日	施設ケアが変わる7つのゼロ<実践講座>	栗野恵美 梶本瑠璃鈴
9月21日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
10月4日	平成30年度食品衛生実務講習会A	木村公紀
10月10日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
10月12日	第9回特定給食施設栄養管理講習会	木村公紀
10月20日	東京都看護師認知症対応力向上研修	竹田久美子
11月19日	介護労働者の労務管理に関する説明会	高崎理恵
11月20日	ショートステイ情報交換会	中嶋弘美
11月24日	第9回摂食嚥下リハビリテーションと栄養ケアセミナー	木村公紀
11月30日	介護報酬請求事務に関する研修会（応用編）	篠崎哲一
2月23日	平成30年度スキルアップセミナー	木村公紀

【内部研修】

開催月	研修内容	講師
随時	新人職員研修	
4月	褥瘡予防	高崎理恵
5月	看取り介護について	篠崎哲一
6月	事故防止安全対策・緊急時の対応	伊沢利恵
7月	感染症について（ノロウイルス）	高崎理恵
8月	ケアプラン・記録について	中嶋弘美
9月	身体拘束・人権擁護	立石翔平
10月	虐待防止	佐野学
11月	認知症理解	篠崎哲一
12月	感染症について	菅野哲也
1月	事故防止安全対策	栗野恵美
2月	個人情報・プライバシー保護	梶本瑠璃鈴
3月	メンタルヘルス	小澤俊太郎

※毎月 福陽会理念に対する研修を行う

開催月	ユニット単位対象 研修内容	担当者
5月	食事について	木村公紀
7月	入浴介助について	各ユニットリーダー
9月	ポジショニングについて	谷合機能訓練指導員
11月	口腔ケアについて	アイデンタルオフィス
1月	排泄介助について	佐野学
3月	接遇について	栗野恵美

旅費・研修費実績：148,838円

14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告

平成30年度もボランティアや慰問の方々を社会資源として、積極的にボランティアの受け入れを行い、新たにボランティア登録して頂いた方や毎月定期的に来て下さる方など、多くの方にお越し頂けた。継続的にボランティアに来て下さる方は、利用者様とも顔見知りになり、利用者様も地域の一員として生活する事が出来ている。

昨年度同様、日の出幼稚園の慰問、今年度は新たにあきる野学園の慰問もあり、利用者様に好評頂けた。

地域交流室の開放についても、日の出町ニュースを語る会や卓球連盟などのサークル活動の場として地域の方がに利用して頂いた。

- 新規ボランティア活動登録者
- 竹中まりや様（傾聴）
- 椎木静夏様（傾聴）
- 本田雄大様（体験ボランティア）
- 星野稀来様（体験ボランティア）

15. 消防訓練実施結果

平成30年度は、震災への対応も含めた避難訓練に重点をおく訓練を行った。6月の自衛消防訓練技術審査会では、優勝という成績を収めることができた。

また、消防訓練参加者チェック表を作成し、一人でも多くの職員に参加してもらおうようにしたことにより、防災に対する意識づけができた。

【30 年度訓練内容】

実施日	訓練種別	内容
4 月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取扱い訓練・119 番通報要領訓練 参加者全員が消火器を使用した訓練を行った
5 月	自衛消防訓練	秋川消防署主催の自衛消防審査会に参加するための訓練 非常に熱心に訓練に取り組んだ
6 月	自衛消防訓練	同上 消防審査会にて優勝をとる事が出来た
7 月	防災ビデオ上映	災害についての意識付けを行う 休憩室にて上映を行い、多くの職員への意識付けが出来た
8 月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 限られた人数しかいない事を想定し訓練を行った
9 月	総合訓練 (日勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 日勤帯の訓練、指導を行った
10 月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取扱い訓練・119 番通報要領訓練 施設の消火栓の配置場所を確認した
11 月	総合訓練 (日勤帯想定)	厨房からの出火を想定した一連の訓練 厨房職員にも参加し、訓練に取り組んだ
12 月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 総合訓練を重ね、実践に備えた
1 月	防災ビデオ上映	災害についての意識付けを行う 休憩室にて上映を行い、多くの職員への意識付けが出来た
2 月	総合訓練 (夜勤帯想定)	秋川消防署と合同訓練を行った 多くの職員が参加し、緊張感があり実践的な訓練が出来た
3 月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 夜間帯の職員が少ない事を想定し、シーツによる人の移動訓練を行った

16. ショートステイ事業報告

ショートステイの受け入れに関して、今年度も前年度同様、施設独自の売りを作って営業活動に励んだ。土日・祝日問わずに受け入れ態勢を整え、夕食後の送迎、事前にご自宅へ訪問して面接・契約などを行い、ご家族様の負担軽減を図るように努めた。その結果、ご利用者様・ご家族様・担当ケアマネジャーより利用しやすいなどの声を多くいただいた。営業活動等で色々な事業所との顔つなぎも出来て、今まで関わった事のない事業所からの問い合わせや、新規利用も増えてきたように感じている。しかし稼働が中々伸びていないのが現状である。繰り返し利用して下さる利用者様の獲得は出来ているが、近隣の特養や老健等多くあるため、ショートステイ専門10床を埋めていく事は難しい状況である。そのため今後も施設の『使いやすさ=売り』をアピールできるよう居宅介護支援事業所等への営業活動を増やし、ケアマネジャーとのつながり・連携を強めて行きたい。

ショートステイ利用後、ご利用者様やそのご家族様が施設内の生活を気に入られ、特養入所枠へ申し込みをされ、数日単位より週単位で利用される方も多くいるため、特養入所を見据えたご利用者様のショートステイの受け入れも推進していき、稼働率のアップを図って行きたい。

平成 30 年度稼働率

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
75.3%	72.6%	88.7%	71.6%	78.4%	80.0%

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
72.9%	69.0%	62.9%	58.1%	53.9%	51.3%

介護報酬収入等年間実績 35,354,112 円